

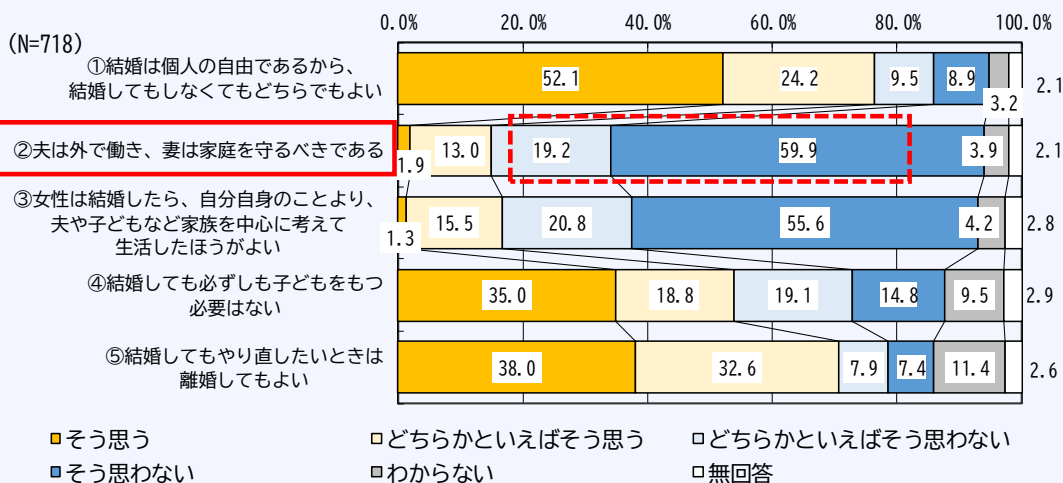
資料1-3

アンケート調査から見る現状と課題

2026（令和8）年5月28日

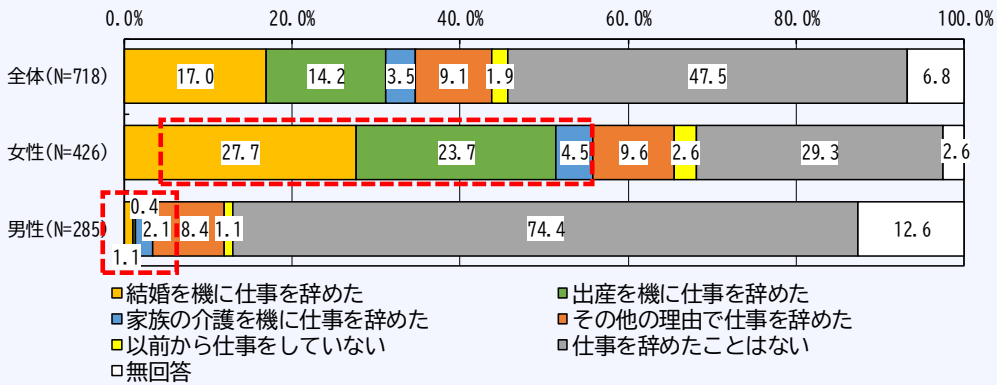
1. 役割分担について(1)

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が79.1%と最も多くなっています。



1. 役割分担について(2)

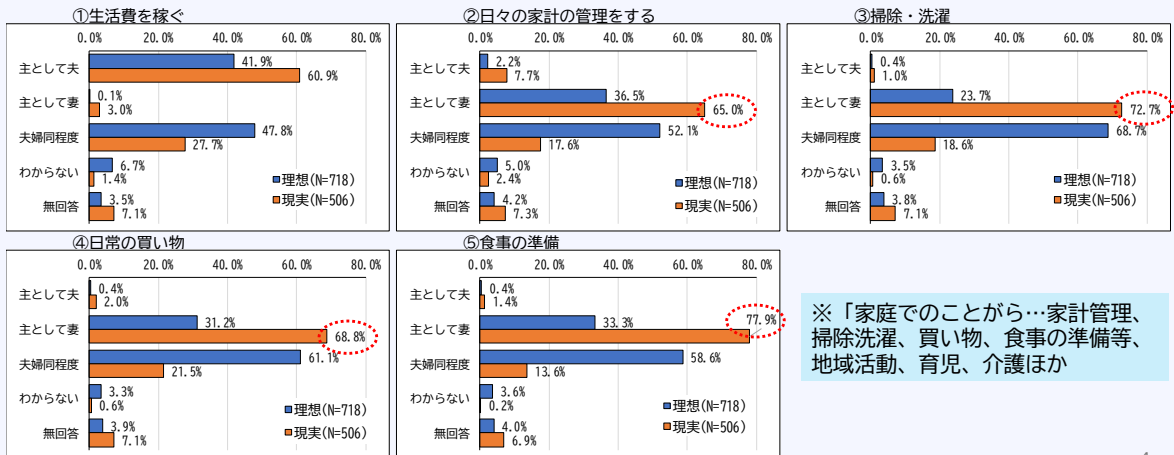
- 「結婚・出産・介護を機に仕事を辞めたことはあるか」の問いでは、性別で比較すると「辞めた人」は女性55.9%、男性 3.6%となっており、「役割分担の意識」と「現実」では大きな違いがみられます。



3

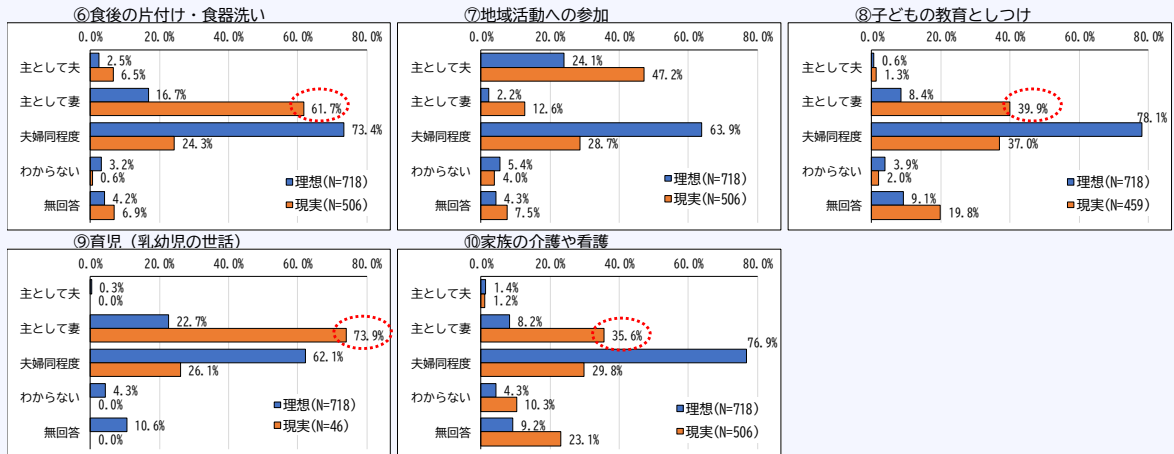
1. 役割分担について(3) ①～⑤

- 「家庭でのこと(※)に関する夫婦の分担」については、「理想」は全10項目で「夫婦同程度」が最も多くなっているものの、配偶者・パートナーがいる方の「現実」では、8項目が「主として妻」となっており、「理想」と「現実」では大きく乖離しています。



4

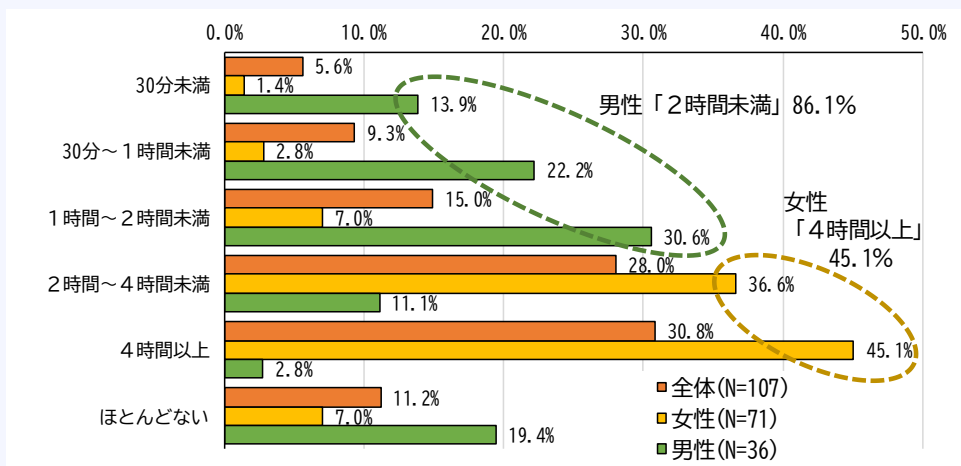
1. 役割分担について(3) ⑥～⑩



5

1. 役割分担について(4)

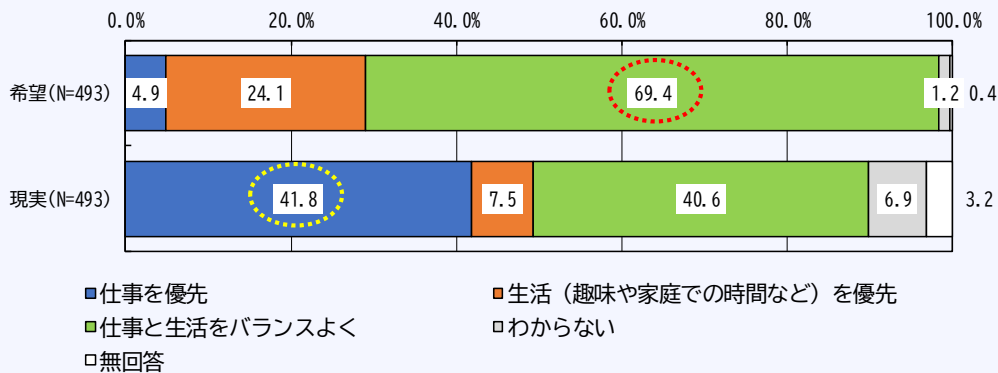
- 中学生以下のお子さんを養育する方へ「1日に家事・育児に費やす時間はどのくらいか」では、女性で「4時間以上」(45.1%)が最も多くなっているのに対し、男性では2時間未満が8割以上(86.1%)で、女性の負担が大きくなっている。



6

2. ワーク・ライフ・バランスについて

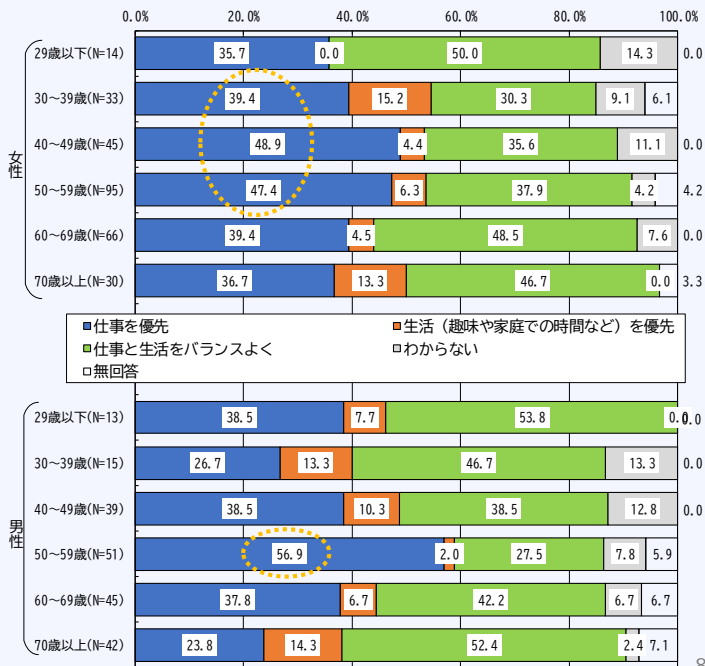
- 「日々の暮らしの中での時間の使い方」では、「仕事と生活をバランスよく」を希望（69.4%）が最も多くなっているものの、現実では「仕事を優先」（41.8%）が最も多くなっています。



7

2. ワーク・ライフ・バランスについて（現実：性年齢別）

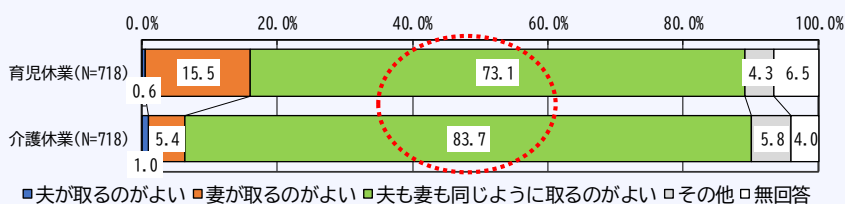
- 「日々の暮らしの中での時間の使い方」の「現実」では、特に
 - 女性の30歳から59歳まで
 - 男性の50歳から59歳まで
 で「仕事を優先」が多くなっています。



8

3. 就労と仕事の継続について(1)

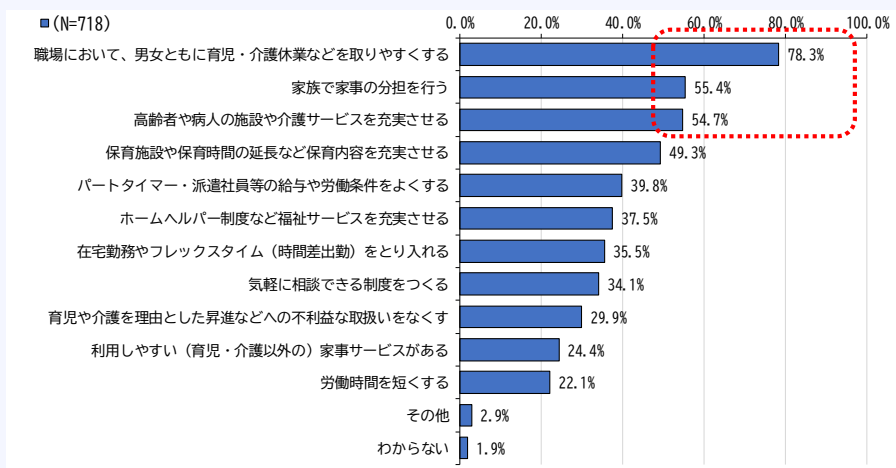
- 家庭で育児や介護が必要なとき、共働きの夫婦の場合、夫も妻も同じように育児・介護休業を取るのがよいとする意見が多くなっています。



9

3. 就労と仕事の継続について(2)

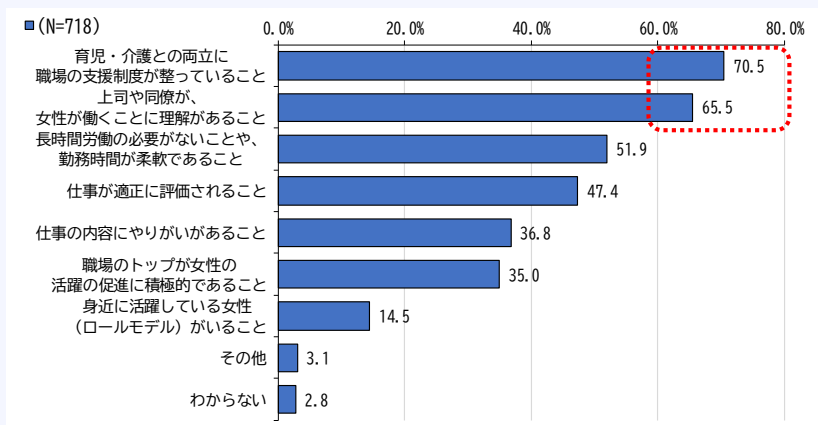
- 女性が働き続けるために必要なことには、「男女ともに休業を取りやすくする職場環境（78.3%）」や「家族で家事の分担を行う」（55.4%）、「介護サービスの充実（54.7%）」が挙げられています。



10

3. 就労と仕事の継続について(3)

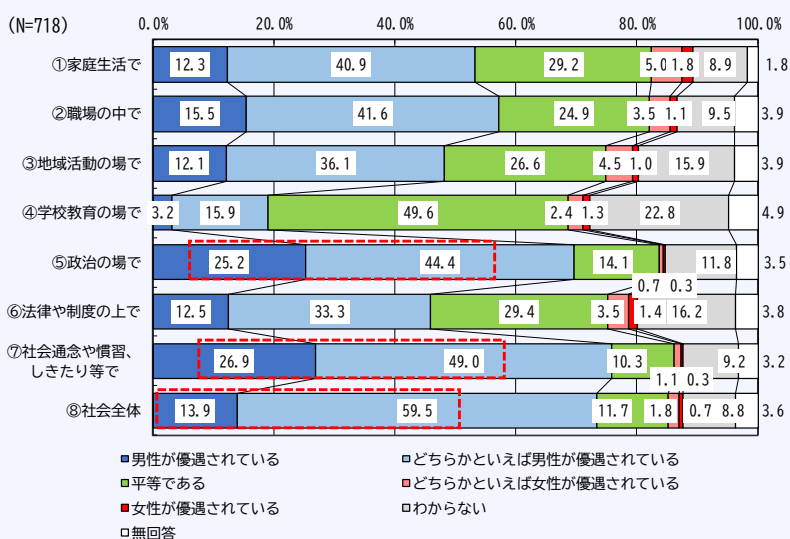
- 女性が働き続けるために必要なこととして、職場に求めるものでは「支援制度の整備(70.5%)」や「上司・同僚の理解(65.5%)」が上位を占めています。



11

4. 男女の地位の平等意識について

- 全体として「男性優遇」と感じている人が多くなっています。
- 分野別では「社会通念や慣習、しきたり等(75.9%)」、「社会全体(73.4%)」、「政治の場(69.6%)」で格差を強く意識されています。



12

5. 地域活動について(1)

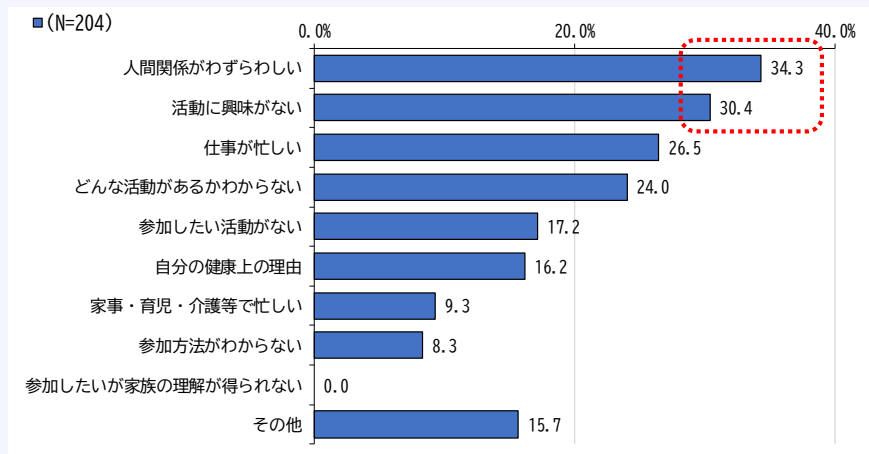
- 「どのような地域活動に参加しているか。」では、男女双方40歳以上は、「自治会・町内会活動」に一番多く参加していますが、39歳以下の男女は、「特に参加していない」が最も多くなっています。

		有効 回答 数	自治会・ 町内会 などの活 動	子ども会、PT A、老人会、婦 人会、消防団な どの活動	福祉・ボラン ティア・NPO などの活動	防災・防犯など の活動	仲間・友人と行 うサークル活動	行政の各種委員 会や審議会の委 員などの公的活 動	その他	特に参 加してい ない
全体		718	57.4%	28.6%	8.8%	5.7%	14.3%	5.6%	1.7%	28.4%
女性	29歳以下	24	12.5%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	58.3%
	30～39歳	38	36.8%	23.7%	0.0%	2.6%	7.9%	0.0%	0.0%	47.4%
	40～49歳	51	58.8%	51.0%	5.9%	0.0%	7.8%	0.0%	0.0%	23.5%
	50～59歳	107	57.0%	29.0%	6.5%	0.9%	9.3%	5.6%	0.0%	29.9%
	60～69歳	98	59.2%	24.5%	16.3%	4.1%	19.4%	7.1%	1.0%	24.5%
	70歳以上	107	46.7%	22.4%	11.2%	3.7%	24.3%	4.7%	1.9%	31.8%
男性	29歳以下	23	21.7%	21.7%	4.3%	4.3%	8.7%	0.0%	0.0%	56.5%
	30～39歳	17	23.5%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	58.8%
	40～49歳	40	57.5%	45.0%	10.0%	7.5%	15.0%	5.0%	7.5%	30.0%
	50～59歳	53	73.6%	35.8%	3.8%	7.5%	5.7%	7.5%	0.0%	24.5%
	60～69歳	62	82.3%	17.7%	4.8%	12.9%	4.8%	16.1%	1.6%	11.3%
	70歳以上	90	75.6%	32.2%	13.3%	16.7%	25.6%	6.7%	4.4%	15.6%

13

5. 地域活動について(2)

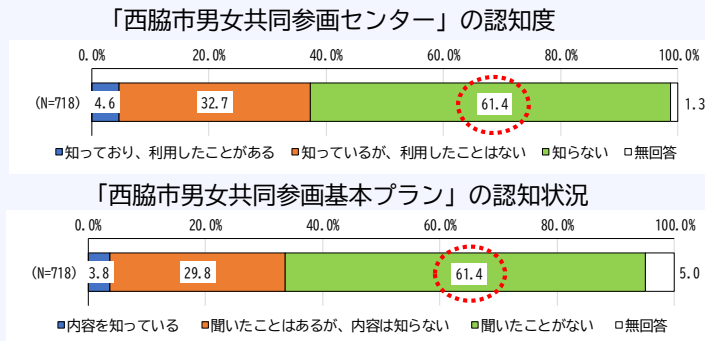
- 参加していない理由では「人間関係がわずらわしい」が最も多くなっています。次いで「活動に興味がない」となっています。



14

6. 行政施策の認知度について

- 「男女共同参画センターの存在」は、61.4%が「知らない」、「男女共同参画基本プラン」についても、61.4%が「聞いたことがない」と答えています。



15

●アンケート調査から見る課題

男女共同参画に関する課題

- ・ アンコンシャス・バイアスへの気づき
- ・ 固定的な性別役割分担の解消
- ・ 男性の家事・育児への参画
- ・ ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・ 働きやすい職場環境の整備
- ・ 意思決定の場への女性の参画
- ・ 誰もが参加しやすい地域活動の環境づくり
- ・ 男女共同参画センターの認知

DVに関する課題

- ・ 相談窓口の周知
- ・ 男性被害者への存在の気づき

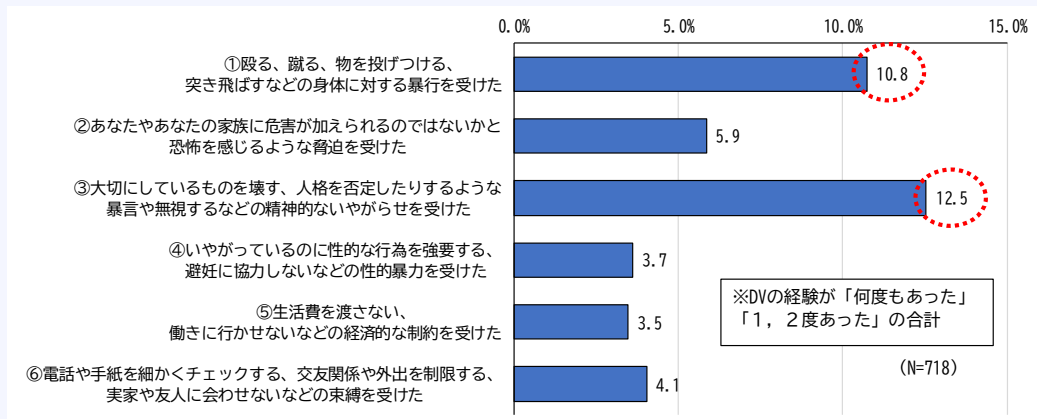
困難女性に関する課題

- ・ 相談窓口の周知
- ・ 潜在的な対象者への存在の気づき

16

7. DVについて(1)

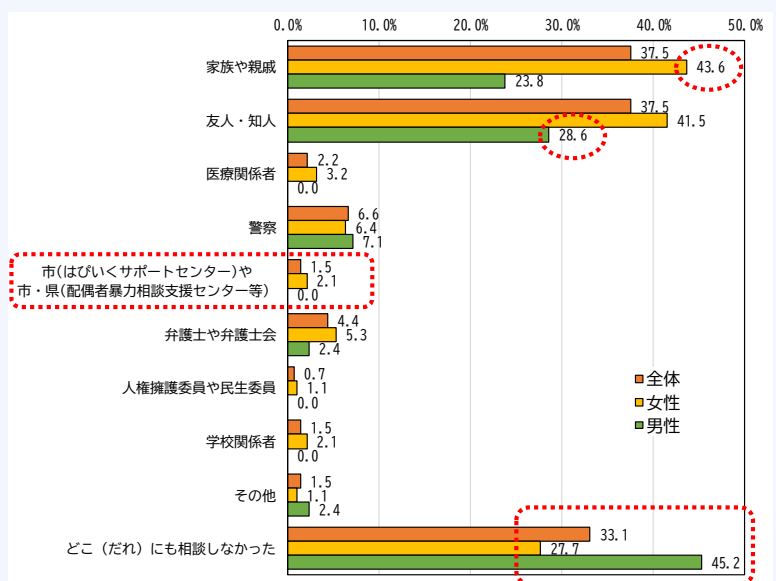
- 精神的ないやがらせを受けた人が12.5%、身体的暴力を経験した人が10.8%、存在します。



17

7. DVについて(2)

- 相談先については、女性は「家族や親戚 (43.6%)」、男性は「友人・知人 (28.6%)」が多くなっており、「市 (はびいくサポートセンター) や、市・県 (配偶者暴力相談支援センター等) は1.5%と低くなっています。
- 「どこにも相談しなかった」人が、全体で33.1%と高く、性別で見ると、女性27.7%、男性45.2%となっています。



18

●アンケート調査から見る課題

男女共同参画に関する課題

- ・ アンコンシャス・バイアスへの気づき
- ・ 固定的な性別役割分担の解消
- ・ 男性の家事・育児への参画
- ・ ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・ 働きやすい職場環境の整備
- ・ 意思決定の場への女性の参画
- ・ 誰もが参加しやすい地域活動の環境づくり
- ・ 男女共同参画センターの認知

DVに関する課題

- ・ 相談窓口の周知
- ・ 男性被害者への存在の気づき

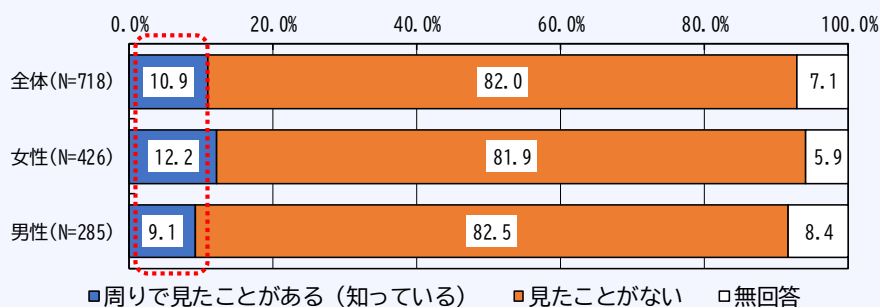
困難女性に関する課題

- ・ 相談窓口の周知
- ・ 潜在的な対象者への存在の気づき

19

8. 困難女性について(1)

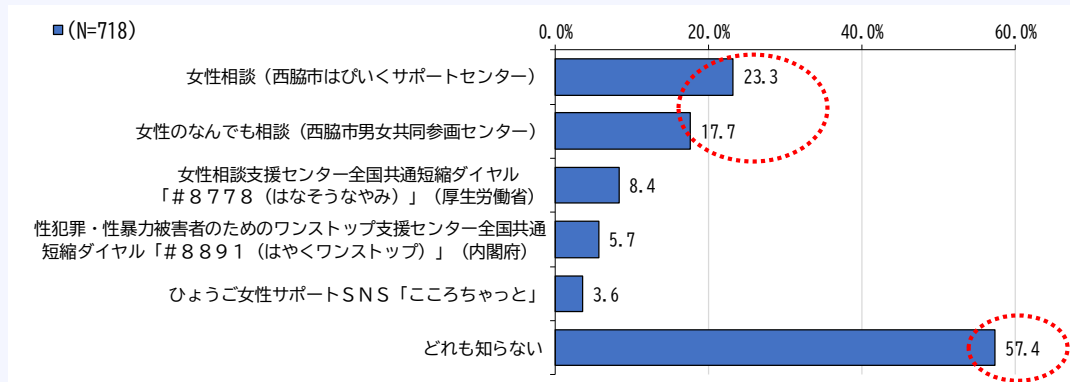
- ・ 周囲で困難な女性を「見たり聞いたりしたことがある」は10.9%となっており、女性（12.2%）の方が男性（9.1%）より多くなっています。



20

8. 困難女性について(2)

- ・ 困難な問題を抱える女性が相談できる相談機関（窓口）の認知度では、
「女性相談（西脇市はびいくサポートセンター）」が、23.3%
「女性のなんでも相談（西脇市男女共同参画センター）」、17.7%
となっています。
- ・ 一方で、「どれも知らない」は57.4%と高くなっています。



21

●アンケート調査から見る課題

男女共同参画に関する課題

- ・ アンコンシャス・バイアスへの気づき
- ・ 固定的な性別役割分担の解消
- ・ 男性の家事・育児への参画
- ・ ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・ 働きやすい職場環境の整備
- ・ 意思決定の場への女性の参画
- ・ 誰もが参加しやすい地域活動の環境づくり
- ・ 男女共同参画センターの認知

DVに関する課題

- ・ 相談窓口の周知
- ・ 男性被害者への存在の気づき

困難女性に関する課題

- ・ 相談窓口の周知
- ・ 潜在的な対象者への存在の気づき

22